

すべての人に見やすい色づかいに気をつけよう！

色は誰でも同じように感じ取れるわけではなく、日本人の場合は、男性では約20人に1人、女性では約500人に1人の割合で色の識別がしにくい特性があるとされています。

案内表示やパンフレットなどを作成する際には、誰もが分かりやすいように色の組み合わせや書体に気をつけるなど、見やすいものにしていく工夫が大切です。

チェック

1) 文字に色を付ける場合

- 背景と文字にはっきりとした明度差を付ける
- 線の細い明朝体ではなく線の太いゴシック体を使う



見分けやすい
組み合わせ

じんけん

(黄と黒)

じんけん

(黄と青)

じんけん

(黒と白)



見分けにくい
組み合わせ

じんけん

(赤と黒)

じんけん

(赤と緑)

じんけん

(茶と緑)

2) 色の組み合わせ

- 暖色系と寒色系、明るい色と暗い色を対比させる
- パステル調の色どうしではなく、はっきりした色と対比させる
- 同系統の「明度差の少ない色」を並べないようにする

※詳しくは、(公財)和歌山県人権啓発センター「ユニバーサルデザインによる色覚バリアフリー」
をご参照ください。(http://www.w-jinken.jp/color/)

チェックリストについてのお問い合わせ〈県人権施策推進課〉

電話 073-441-2566 FAX 073-433-4540

